

超人気FP!

ABC ネットニュース

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2015年4月6日

今月のトピックス 「個人投資家好みの株は上昇していない」

日経平均株価は2万円に手が届く水準まで上昇しているものの、個人投資家が儲かっているという話はあまり聞かれませんが、それもそのはずで、個人投資家好みのバイオ関連株やゲーム関連株などの中小型の材料株は、年初からの上昇相場の圏外に置かれているからです。

図は、日本銀行が追加緩和を行った2014年10月31日の終値を100として、わが国の代表的な株価指数がどの程度上昇したのかを比較したものです。日経平均株価、JPX日経インデックス400は、5ヵ月半で17%前後上昇していますが、日経ジャスダック平均株価は約8%、東証マザーズ指数に至っては、マイナス1.6%というありさまであります。個別株式では大きく上昇している銘柄もあることから、株価指数で判断する限りは、機敏に投資スタイルを変更した個人投資家は儲かっていると考えられます。しかし、循環物色を期待してマザーズ市場などの新興市場銘柄に固執し続けた個人投資家は、年初からの株価上昇は指をくわえて見ているだけだったことでしょう。

なぜ、株価上昇率に大きな差が付いてしまったのかと言えば、年初からの株価上昇は「官製相場」と揶揄される相場だからです。いわゆる公的マネーと言われる株式の「買い主体」は、その運用資金の大きさから「くじら」と称され、現在、5頭のくじらが日本の株式市場にはいるのです。最大規模のくじらは、昨年からの活発に動いているGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）。そして、国家公務員共済、地方公務員共済、私学共済の3共済（合わせて1頭）に加え、かんぽ生命、ゆうちょ銀行が加わり、異次元緩和でETF（上場投資信託）の大幅な買い増しを表明した日本銀行の5頭になります。

この5頭のくじらが買い付ける株式は、東証マザーズなどの新興市場銘柄ではなく、わが国を代表するような優良株（ブルーチップ）が中心。言い換えれば、東証1部の株価指数に組み入れられている銘柄や、ROE（株主資本利益率）が8%以上の高収益株で算出されるJPX日経400インデックス組み入れ銘柄しか買い付けることはないのです。JPX日経400インデックスには、東証マザーズなどに上場している新興市場銘柄も含まれていますが、バイオ関連株のような赤字企業が同指数に含まれることはないのです。いずれは循環物色により、東証マザーズなど新興市場銘柄も上昇する局面が来ると言われていますが、5頭のくじらの買いが確実に期待できる東証1部銘柄や、JPX日経400インデックス銘柄へ投資したほうが、儲けるチャンスを増やすことができると思われてなりません。5頭のくじらの買い余力は約27兆円もあると試算されているからです。

主な株価指数の推移

